

# 特集6

広島県 神石高原町  
小畠中学校

## 人と自然が輝く高原の町「神石高原町」の 小畠総合福祉施設

神石高原町 福祉課 主任主事 佐藤 佑美



### 神石高原町ってどんな町

「神石高原（ジンセキコウゲン）町」は、広島県東部の岡山県との県境に位置しています。人口9512人（65歳以上4348人）、高齢化率45%です。標高400～500m、豊かな自然に澄んだ空気、そして3つの川（高梁川、芦田川、江の川）の源流があり、初夏になるとあちこちでホタルが乱舞します。



■神石高原町

### 中学校の廃校と廃校活用の検討

全国のどこも同じですが、中山間地の私たちの町にはいち早く、過疎と少子高齢化の波が押し寄せ、3つの中学校を一つに統合し、昭和52年に建築された「小畠（こ



小畠総合福祉施設（旧小畠中学校）

ばたけ）中学校」は廃校になることとなりました。

廃校の跡地利用については、振興区長、PTA、学校関係者、商工会、老人会、青年会、女性会等、地域住民が参加する「小畠中学校跡地利用検討委員会」が組織され検討が行われました。

### 総合福祉施設へ

検討委員会は、地域住民に対してアンケート調査等を実施しました。その結果、多くの意見がありました。中でも高齢者福祉施設としての活用が圧倒的に多く、検討委員会は、住民の意見として、高齢者福祉施設への活用を要望しました。

平成12年3月、小畠中学校は、学び舎としての役割に幕を下ろします。そして、高齢者福祉を含む「小畠総合福祉施設」に生まれ変わり、地域福祉の拠点となりました。

近隣の住民からは、廃校となった当初は、子どもの声もなく明かりも消え、とても寂しい思いをしていたが、活用されたことで、再び明かりが灯り、子ども達の声も聞こえ、活気が戻ってきたとの評価を頂きました。

### 小畠総合福祉施設の事業内容

小畠総合福祉施設で実施している各事業の概要と、神石高原町ならではの特色を上げてみます。これらの事業は、旧小

学校施設は、住民の意識のなかで重要な資源であり、有効利用は地域活性化につながります。だからこそ、地域住民の要望、意見を聴き、廃校の活用方法を検討しようとしたのです。



「普通食」と「刻み食」



配食サービスセンターでの食事作り

①「高齢者向け配食サービスセンター」  
（利用者100人弱）  
高年齢者または障がい者の方であつて、食事の調理が困難な方に対し、年中無休で、栄養バランスのとれた食事（昼食と夕食）を配食しています。配食の種類には、普通の食事「普通食」とは別に、やわらかい食事しかとれない人のために「刻み食」も準備しています。配食は居宅を定期的に訪問することになり、その際に利用者の安否確認も行います。

③「託児所」（定員20人）  
町内外の保育所、幼稚園に通う前の乳幼児を、0歳から預ります。利用時間は午前7時から午後7時です。小島地区の保育所は2歳から受け入れるため、2歳未満の乳幼児の利用が多くなっています。



楽しい絵本

②「高齢者生活支援施設」  
（定員15人、入所者13人）  
身体的には自立もしくは要支援で、独立して生活することに不安のある60歳以上の高齢者が、共同生活を送っています。共同生活は、細かいプログラムを組まず、ゆとりを持って生活を送ります。



高齢者生活支援施設談話室

4つの事業とも、運営・管理については、神石高原町が別法人（社会福祉法人、公益社団法人、株式会社）に委託する方式を採用しています。それぞれの事業合計で雇用を42人分（パートを含む）確保しており、地域の職場として大きな役割を果たしています。  
しかしながら、小島総合福祉施設の課題として、施設の老朽化があります。施設は平成12年から運営を開始し15年以上が経過しているため、大規模な修繕が必要な時期がきています。  
今後、地域住民の声に耳を傾け、その意見を十分に考慮し取り進めてゆくのが、大切なことだと思っています。

④「放課後児童施設」（定員40人）  
小学生で保護者が昼間家庭にいない児童に対し、放課後の遊びの場と生活の場を提供しています。運営を町のシルバー人材センターに委託しており、世代間交流の場となっています。



放課後児童施設

今後の課題等